ひろしま自然保育推進事業　活動報告書

1　東広島シュタイナーこども園さくら
2　今年度の活動事例

【事例：注連縄作り】

日時：令和３年１２月２日（日）
場所：こども園さくら（東広島市八本松町篠）
目的：　自分達で育てた稲の藁を使って注連縄作りを行い、
　　新年を迎える準備をする。伝統的な稲作文化を体験する。
出席人数：園児名（家族参加行事）
事前準備：田植え、稲刈り、保育士の事前練習講習会、藁始末（各家庭）
準備物：ブルーシート、タオル、救急具、木槌、木台、はさみ、一輪車、ほうき、
　　ちりとり、麻紐、カッター、飾り用松、千両や万両の実、裏白の葉、お飾り、
　　園芸用針金、ペンチ、ザル、予備用藁、見本用注連縄

今年度は、昨年に引き続きコロナ過によりお正月準備のためのお餅つきができなかったため、注連縄作りを行うことで新年を迎える準備を行いました。昨年は、注連縄作り講師の先生から藁を分けていただいたのですが、今年は藁を作るための古代米の苗を分けていただき、一から注連縄作りを行うことに挑戦しました。

長い古代米は刈るのも一苦労

はで干しにするのも一苦労

もち米の稲刈りは慣れていましたが、もち米より丈の長い古代米は、幼児の身長よりも随分高く、長い稲を片手で持ちながら鎌で刈り取る作業は、難易度が高いものでした。
また、はで干しにするために、藁で束ね、運び、竹にかける作業も丈が長く重たい分、

大変な作業となりました。そのようななかでも、子ども達は力を合わせて最後までよくがんばりました！

〈注連縄作り会〉

地域の注連縄作りの先生を講師としてお迎えし、家族で作る“注連縄作り会”を行いました。こども園で事前に脱穀と藁のハカマの取り方を子ども達や保護者の方に伝え、各家庭で自分の注連縄用の藁の処理をしてきてもらいました。

裸足になり、両手両足を使いながら、もちろん頭も使いながらの作業は、見た目以上に難しいものでしたが、藁から縄が出来上がった時には感動の声が上がっていました。

下処理をした藁を本数を数えながら束にします

裸足になって藁をねじっていきます

両手両足を使って一本の縄にしていきます

カッターやはさみできれいに整えます

それぞれ素敵な注連縄が出来上がりました

〈所感〉

注連縄を実際に作ってみて、きれいな注連縄を作るには、藁のハカマを取り、芯のしっかりしたものをきれいにそろえて整えておくことが大事だということが分かりました。それには、しっかりとした稲を作ることが大事であり、当たり前のことですが、“全てがつながっている”ということを改めて考えさせられました。また、注連縄作りの一つひとつの工程が意味あるものであり、それぞれの工程を一つひとつ丁寧に確実に行っていくことの大事さは、日常生活の様々な場面に通じるものであると感じました。

先人の知恵や技術に尊敬の念を持つと同時に、これからも子ども達にこのような伝統的な日本の文化を伝えていきたいと思いました。

〈課題〉

開園以来、毎年、もち米の苗を植えているため、田植えや稲刈りの経験はありましたが、通常のもち米に加えての古代米の田植えや稲刈りは、幼児の体力的に大変なものがありました。今年は、使用する藁の量の把握が難しく、苗をかなり多く植えすぎてしまい、余計に大変な作業をなってしまったので、量の把握と幼児の活動のバランスを見極めていきたいと思います。

地域の週刊新聞の１面に掲載されました！